# 令和2年5月24日（日）樹木診断会　報告

## 場所：稲毛海岸3丁目団地管理組合法人

住所：美浜区稲毛海岸３－３
５階建て27棟、768戸、築年:1968年（昭和43年）　築52年
「稲毛海岸3丁目住宅管理組合緑化協定」（協定番号104番）

## 希望するアドバイス内容：

ソメイヨシノの上部枯れ枝が目立ち、また強風での枝折れが頻繁に起こり、超高木となり害虫防除や剪定も難しくなり管理費も高騰することから、問題のある個所から対応処置を開始しました。

特に樹齢40年を超えるサクラの延命策として、強剪定するなどの対応をしており、それぞれの対応が適切か診断をしていただき、管理方針をご指導いただきたい。

事前に、対応状況報告と質問を樹木医大矢先生に提出、回答の文書もいただきました。

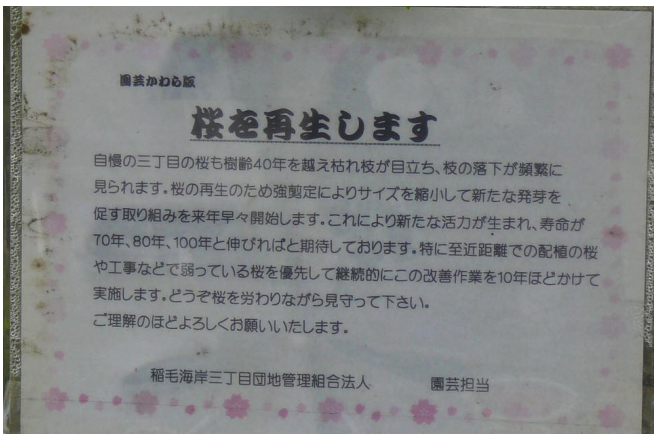
## 樹木診断の流れ：

参加者は講師を含め約20名となり、集会室前で診ていただく内容の説明の後、予め予定した順番で敷地をまわり樹木診断をしていただきました。

なお、2年前の樹木診断会報告も、ご参照ください。　→　　(2018)平成30年８月19日樹木診断会報告

↑
集会室前での事前説明

↑
敷地内の強剪定した、それぞれのサクラを診ていただいた。



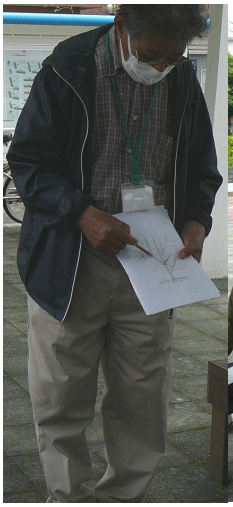

↑
管理組合法人　園芸担当による掲示


問合先_Email:c.ryokkasuisin@gmail.com

↑
敷地が広く、芝刈りも住民により実施。よく管理された緑豊かな環境です。

↑
伐採した跡の切株より新しい芽吹き（樹木が若返る）

↑
ビャクシンの先祖返りの説明もありました



↑
樹木の整姿や剪定方法など説明がありました。

↑
防災用井戸「浅間の泉」も敷地内にあります。

「樹木医：大矢資料-樹木の整姿」をいただいた。
↑（クリック　ご参照）

その他、参加された稲生理事より「カイガラムシ」駆除の効果についての報告もありました。
海浜コートビレジ樹木診断会報告（2頁目）ご参照

ご参考に、事前に提出された「令和2年度樹木診断内容案」と「植栽樹木のトラブルについて」を添付します。


問合先_Email:c.ryokkasuisin@gmail.com

# 令和２年度樹木診断内容案

## ☆ソメイヨシノ診断依頼説明

管理の経緯としては、ソメイヨシノについては、居住エリアの樹木として、大きく成長しすぎており、樹齢４０数年となり、上部枯れ枝が目立ち、また強風での枝折れが頻繁に起こること、また超高木となった結果、害虫防除や剪定も容易でなく管理費も高騰することを考慮し、樹木の延命対策もあり、丈詰め、強剪定を特に問題個所から開始しました。

**令和元年度施工内容：**

＊集会所前公園の至近距離列植により樹勢の衰えが目立つ２本の強剪定と２０棟そばの、汚水管工事で根元を掘り返したことに原因が考えられる枯れ枝急増の３本、そして昨年の台風１５号の太枝落下の１９棟そば道路沿い１本を丈詰め、強剪定実施。施工後は無事、しっかり花をつけ結果は順調。

## 施工に関連する質問

以前お聞きした先生のご指導や、業者の意見では、再生には強剪定が効果的と言われていますが、①樹勢の弱っている樹木を強剪定した場合、果たして樹木の再生が本当に可能でしょうか？　②今回実施の強剪定（太い幹を切り、一気にサイズを三分の二以下に）の方法が適切だったか？　また、③特に沿道列植のソメイヨシノについては必要に応じて、強剪定の実施を考えていますが、上記改善目的のためには妥当な方法でしょうか？　④強剪定後は当然小枝も減り花のボリュームも減り、太い幹の切断面が見え見栄えが悪い気もしますが、枝の再生によりこれは改善されるでしょうか？⑤改善方法として、樹木の負担を少なくすべく、一気に強剪定でなく、２段階くらいにわけて剪定実施により、最終目的である丈詰め枯れ枝切り取りを達成するほうがベターでしょうか？

⑥ 樹木によっては、幹の途中に中枝すらなく、管理のための適正樹高【三分の一～二分の一】までの強剪定実施が困難な樹木の場合は、いっそのこと間伐が望ましいのか？⑦立地場所にもよるが、昨年、今年はとくに一気に咲かずだらだらと咲き、花のつかない枝も多く見られたが、これはやはり樹勢の衰えによるものでしょうか？また塩害などの影響でしょうか？⑧幹や太枝付け根部分の腐朽が進んでいる樹木などの再生のためには、強剪定の他に土壌改良など他にも対処法がありますでしょうか？

上記質問事項に沿い、改善対象樹木とその他改善対象エリア（特に沿道列植の樹木）を時間の許す限り見て頂き、１本ずつ、管理方針をご指導いただきたいと思っております。

**☆ソメイヨシノの他に樹勢の衰えが見える中高木、コブシ、プラム、ハナミズキ、八重桜、冬桜などについて、**時間が許せば診断よろしくお願いいたします。

稲毛海岸三丁目団地管理組合法人　園芸担当　榎田

# 植栽樹木のトラブルについて

## ソメイヨシノ（染井吉野桜）

### 枝枯れ

生理的枯れは「**梢端枯れ**」として現れる。原因は、土壌（根系）にあり、具体的には、過湿による根腐れ、過排水、工事などによる物理的な根の損傷による**吸水阻害**、また埋立地などでみられる土壌層の生育維持の**許容限界**などによる樹木の衰弱などが考えられる。

### 枝条の乱れ

「桜切る馬鹿、梅切らぬ馬鹿」は単なる語呂合わせであり、これを信じて、あらかじめ切っておくべき枝の放置にある。正しくは「**桜切る馬鹿、切らぬ馬鹿**」であり、不要枝葉は極力負担の軽い初期剪定をすべきでということになる。
乱れの具体例は密植により光合成確保のため枝条過多となり病害虫の発生要因ともなり、また陽光を求めて異常な徒長枝の発生、均等な枝条の発生を妨げる場所への誤った植栽による。

### 対策

#### 土壌改良

団粒構造と場合によっては施肥も必要となる。簡易的には吸収根近くに通気管を設け、通気は勿論、給水や施肥も行う。
薄い土壌層による衰弱の場合には剪定との組み合わせが効果的となる。

## 質問の回答

①衰弱した樹木の主枝，亜主枝の強剪定での再萌芽は？

一概に答えは出せないが、一般論として落葉樹の萌芽は春先であり、夏から秋にかけての蓄積期の葉数、日照などの状況から翌春の再萌芽養分としてのデンプン（糖）つまり発芽ホルモンの蓄積量から判断することが必要である。

② 強剪定にあたっての切除位置？

① との関係から強剪定の度合いは異なるが、単に前年の光合成産物（デンプン：糖）量のみではなく、土壌条件、根系の健全さなど総合的な判断となる。樹勢が旺盛で縮小樹形とする場合は再萌芽力も旺盛とみられるので強剪定が可能となる。衰弱樹、梢端枯れの場合は生きている部分で切り再萌芽を期待する。

※ 強剪定か中剪定による段階的剪定かは樹勢、樹種などにより判断する。無難なのは再萌芽力を確認しながらの段階を踏む方法が良いが管理費なども関係することにもなる。

③ 支障樹木での剪定の度合い？

支障の度合いにより、樹木生理を考えるのか犠牲にするかの折り合いということになる。

④ 強剪定後の再萌芽枝による樹形の修復？

樹木は枝を切断されると葉数が減る。結果光合成量が減り樹体維持に支障をきたす。これを避けるため失われた分を取り戻すために一斉に再萌芽して一気に葉数を整える。次の段階は多くの小枝の整理を行い樹形整える。

⑤ 強剪定の段階？

②の※を参考に

⑥ スタンダード形の樹木？

ケースバイケースだと思います。

⑦ 不揃いの開花？

開花のメカニズムは花芽の形成―花芽の休眠―休眠打破―花芽の成長―開花であり、花芽の着生位置や気温などの違いなどにより不揃いは生じる。

⑧ 腐朽部の扱い？

過去には腐朽部（洞）にモルタルや発泡ウレタンなどを詰めることが行われたが現在では禁止、自ら防御帯をつくるようにさせる。